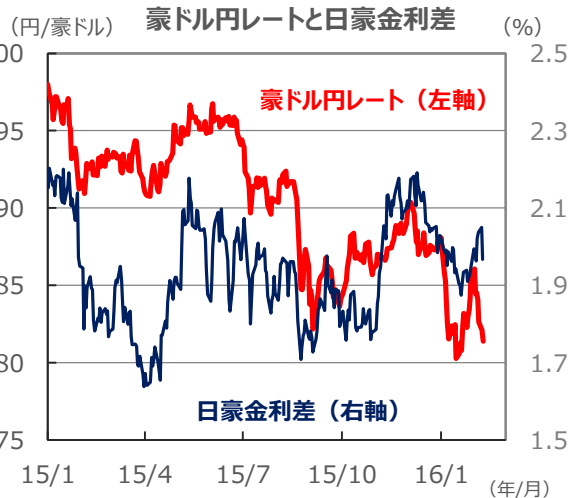


今日のトピック 豪ドルの足元の状況と今後の見通し

日豪金利差などから見て底堅い推移へ

ポイント1 足元の豪ドルは弱含みの推移 中国経済の先行き不透明感が背景

■豪ドルの対円レートは、足元で軟調に推移しています。中国経済の先行きに対する不透明感、それに端を発する金融市場の混乱から、いわゆる「リスクオフの円高」が進んだためです。1月中旬から同月末にかけては、失業率や雇用者数、小売売上高といった豪州国内の景気指標が市場予想を上回ったことから豪ドルは上昇しましたが、2月に入ると再び中国経済への懸念の高まりや、全般的なリスク回避の流れのなかで、弱含みの推移となっています。



(注) データ期間は2015年1月1日～2016年2月9日。
日豪金利差は3年国債利回りの差。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

ポイント2 政策金利は当面据え置き 物価は低い水準で安定

■オーストラリア準備銀行（RBA）は、2月2日の会合で、政策金利を2.0%に据え置きました。豪州の景気は、昨年までの利下げ効果などにより緩やかな回復を続ける見込みです。一方、資源価格の下落や賃金の伸び悩みによりインフレは低位で推移すると予想されます。

■景気や物価の動向から判断すると、政策金利は当面のところ据え置かれると予想されます。ただし、RBAは最近の金融市場の混乱が内外の需要を弱める可能性に言及しました。インフレが低位で落ち着いていることから、必要な場合はさらなる緩和の余地もある点には、留意しておく必要があります。

豪ドル円レートの変動要因

豪ドル円レートの変動要因		足元の状況 (今後の豪ドルへの影響)
日豪金利差	金利差拡大で高金利通貨としての魅力増加	・RBAの利下げに打ち止め感（豪ドル高） ・日銀の金融緩和が継続（豪ドル高）
資源価格	資源輸出拡大で豪ドルの買いが活発化	・鉄鉱石価格に底入れ感（豪ドル高）
中国景気	中国向け輸出拡大で豪州景気が上向く	・中国政府による景気刺激策（豪ドル高）

(出所) 三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 日豪の金融政策の方向性から見ると、豪ドルは底堅い推移へ

■豪州経済に大きな影響を及ぼす中国の景気については、既に不動産投資に上向きの兆しが見られるうえ、政策余地もあることから、徐々に底堅さを取り戻しそうです。

■金利据え置きをRBAに対し、日銀はマイナス金利を導入し強力な金融緩和を進める方針です。日銀の追加緩和によって拡大した日豪金利差は当面継続すると見られ、豪ドル円レートを支える見通しです。

ここもチェック! 2016年 2月 2日 豪中銀、政策金利を据え置き
2016年 1月21日 IMFの世界経済見通し（2016年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。